■「ネパールにおける教育の現状ー教育援助のあり方を問うー」

講師：シャキャ・ディプ氏（ネパール出身。神戸大学大学院国際協力研究科博士後期課程）
日程：2011 年 3 月 21 日(月曜日・祝日)
講演時間：14:00～16:00

■ 講演会概要

講演は以下の 3 点から構成されておりました。それぞれについて簡単にまとめさせて頂きました。

【1】 ネパールの概要

- 地理： 東、西、南の三方をインドに、北方を中国チベット自治区に接する西北から東南方向に細長い内陸国。国土は世界最高地点エベレスト（サガルマータ）を含むヒマラヤ山脈および中央部丘陵地帯と、南部のタライ平原からなる（出典：ウィキペディア）。首都はカトマンズ。
- 面積： 北海道の 1.8 倍
- 人口： 2,993 万人（日本の約 1/4）
- 民族と言葉：101 の民族からなり、92 の言語がある多民族・多言語国家。
- 産業：農業、観光、出稼ぎ（一人当たり GDP= $440）人口の 3 割が一日当たりの収入$1 以下の貧困層。
- 識字率： 男性 65.1%。女性 42.5％（2001 年の全国調査に基づく。最近ではもう少し高いが、「識字」の定義によって上下する。）
- 社会制度： カーストによる身分制度がある。さらにカースト制度の外側に位置する不可触民と呼ばれる最も差別される人々もいる（人口の 13%。300 万人。年収$39。識字率 10%以下）

【2】 ネパールの教育の現状と課題

	学校	年齢	純就学率	総就学率
1	幼稚園	3~5 歳	―	66.2%
2	小学校（5 年間）	6~10 歳	93.7%	141.4%
3	前期中学校（3 年間）	11~13 歳	63.2%	88.7%
4	後期中学校（2 年間）	14~15 歳	40.8%	65.7%
5	高校（2 年）	16~17 歳	6.8%	23.6%

- 純就学率： 就学すべき年齢で就学できている子供の就学率
- 総就学率： 就学すべき年齢で就学できなかった子供も合わせた就学率。遅れて就学する子供が多い。
- 女子就学率： 75%@2001 年 ⇒90%@2008 年、改善している（男子 93%@2008）
- 公立学校の学力問題：私立学校と比べて公立学校の子供の学力が低く、SLC という中学校卒業試験の合格割合が公立：私立＝2:8（受験者数は公立：私立=8:2）。家庭環境の影響が大きい（裕福な子供は私立）。
- 教育に対する課題（公立）： 教科書が新学期に揃わない（2 週間遅れて届く学校が 5 割以上という調査もある）。
- 教員に対する課題（公立）： 教員一人当たりの子供が 20 人～300 人とばらばらであり、教育水準を一定に保つための教員配置が不適切。教員の給与が低いと同時に給与支払の遅延がある。

【3】 今後のあり方（外国からの支援も含めて）

- 支援活動の偏り： 発表者（シャキャ）の 25 団体の HP 調査によると、NGO の支援活動はカトマンズ近郊に偏っている。支援地域を広げればネパール全体で教育水準が向上すると思われる。
- 授業内容の拡充： 学校には通えるようになってきているが、子供の理解度が不十分なため、授業内容の改善などソフト面が今後必要とされている。
- ネパールのニーズと支援のあり方がミスマッチ： 現地のニーズと支援のミスマッチ（理科室を作ったが使われていないなど）があるため、現地の事情に合致した支援が必要。
- ネパール自身の課題： ネパール自身が教育援助されることに慣れてしまっているところがある。